

## . アンケート・ヒアリング調査

### 1. アンケート・ヒアリング調査の概要

#### 1.1 住民に対するアンケート調査の概要

##### (1) 調査目的

プログラムの実践に向けた計画（アクションプラン）の検討を行うための基礎資料として、泡瀬地区の自然・社会環境に対する意識、泡瀬地区の自然・社会環境を活用した活動の経験、活動に対する参加協力の意識等を把握することを目的に、人工島周辺地区内の在住者に対するアンケート調査を実施した。

#### 地域住民アンケート調査の目的

- ・ 地域における特徴的な自然環境について把握する
- ・ 地域における特徴的な社会環境について把握する
- ・ 地域の自然・社会環境学習の認知及び参加経験について把握する
- ・ 地域の自然・社会環境学習活動への興味・参加、協力について把握する

##### (2) 調査対象

泡瀬人工島を中心として半径 7km 以内に位置する沖縄市内の地区居住者、及び泡瀬人工島を中心として半径約 4km 以内に位置する周辺市町の地区居住者

##### (3) 調査期間

平成 16 年 10 月～11 月

##### (4) 調査手法

訪問留置法（訪問回収）

##### (5) サンプルング

各地区分による割合で無作為抽出

表 - 2.1.1 アンケート調査対象地区とサンプル数

地区名				地区名					
地区名	サンプル数	配布数	回収数	地区名	サンプル数	配布数	回収数		
沖縄市	越来	9	7	7	沖縄市	池原	10	8	8
	城前	6	3	3		東桃原	3	3	3
	照屋	23	22	22		大里	15	11	11
	室川	11	19	9		東	7	5	5
	安慶田	24	9	19		古謝	17	13	13
	住吉	8	6	6		高原	27	20	20
	嘉間良	7	6	6		比屋根	18	9	9
	八重島	4	3	2		与儀	11	7	7
	センター	15	0	0		泡瀬	30	18	19
	胡屋	34	32	29		泡瀬第一	10	8	8
	中の町	21	20	20		泡瀬第二	1	1	1
	園田	7	5	5		泡瀬第三	11	8	8
	諸見里	22	17	17		海邦町	8	6	6
	山内	14	10	10		具志川	前原	6	6
	山里	12	10	10	熱田		43	32	32
	久保田	10	7	7	北中城	泉宮団地	11	9	9
	南桃原	17	14	14		和仁屋	19	15	15
	美里	37	27	27		渡口	24	19	19
	宮里	21	15	15		美崎	9	8	8
	吉原	3	3	3	中城	久場	43	30	29
	松本	15	14	13		サンプル数 全対象地区 685 サンプル (その内、泡瀬周辺地区 288 サンプル)			
明道	6	5	5						
知花	18	14	14						
登川	18	14	14						

泡瀬周辺地区 (人工島を中心として半径約 4km 以内)

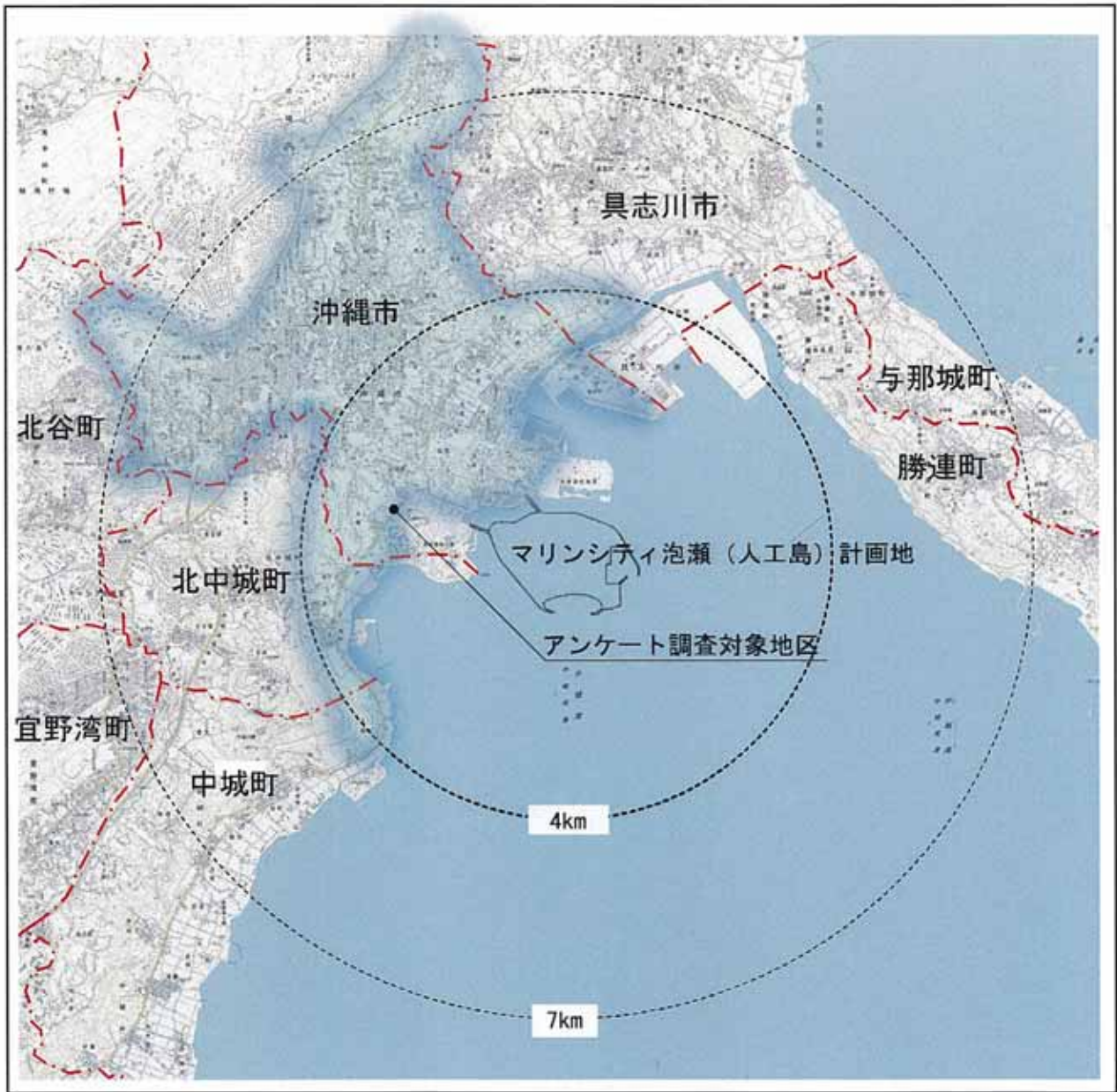


図 - 2.1.1 アンケート調査対象地区

## 1.2 小・中学校、高校、養護学校に対するアンケート調査の概要

### (1)調査目的

プログラムの実践に向けた計画（アクションプラン）の検討を行うための基礎資料として、自然・社会環境を活用した学習の実施状況、学習を実施する上での問題、課題を把握することを目的に、小・中学校、高校及び養護学校関係者に対するアンケート調査を実施した。

#### 小・中学校、高校、養護学校アンケート調査の目的

- ・ 泡瀬地区における環境学習や体験プログラムの活動状況を把握する
- ・ 泡瀬地区における環境学習実施上の問題点・課題について把握する
- ・ 泡瀬地区における環境学習実施の可能性を把握する
- ・ 泡瀬地区における自然環境実施上の必要な支援について把握する

### (2)調査対象

- ・ 沖縄市内の小学校 15 校、中学校 8 校、高校 5 校、養護学校 2 校

### (3)調査期間

- ・ 平成 14 年 10 月～11 月

### (4)調査手法

- ・ 郵送調査

## 1.3 NPO 等緒団体に対するヒアリング調査の概要

### (1)調査目的

プログラムの実践に向けた計画（アクションプラン）の検討を行うための基礎資料として、各団体等が自然・社会環境を利用した活動を行う際の問題点・課題、泡瀬地区の自然・社会環境に対する興味、泡瀬地区の自然・社会環境を活用した活動に対する活動実施の可能性を把握することを目的に、沖縄県内の NPO 等団体に対するヒアリング調査を実施した。

#### NPO 等諸団体ヒアリング調査の目的

- ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習で興味を引かれるものを把握する
- ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習実施上の問題点・課題を把握する
- ・ 泡瀬地区における活動の可能性を把握する

### (2)調査対象

- ・ 沖縄県内の NPO 等団体のうち、環境をテーマに活動を行っている主な団体（42 団体）

### (3)調査方法

- ・ 直接面接及び電話調査（一部 FAX 調査、郵送調査）

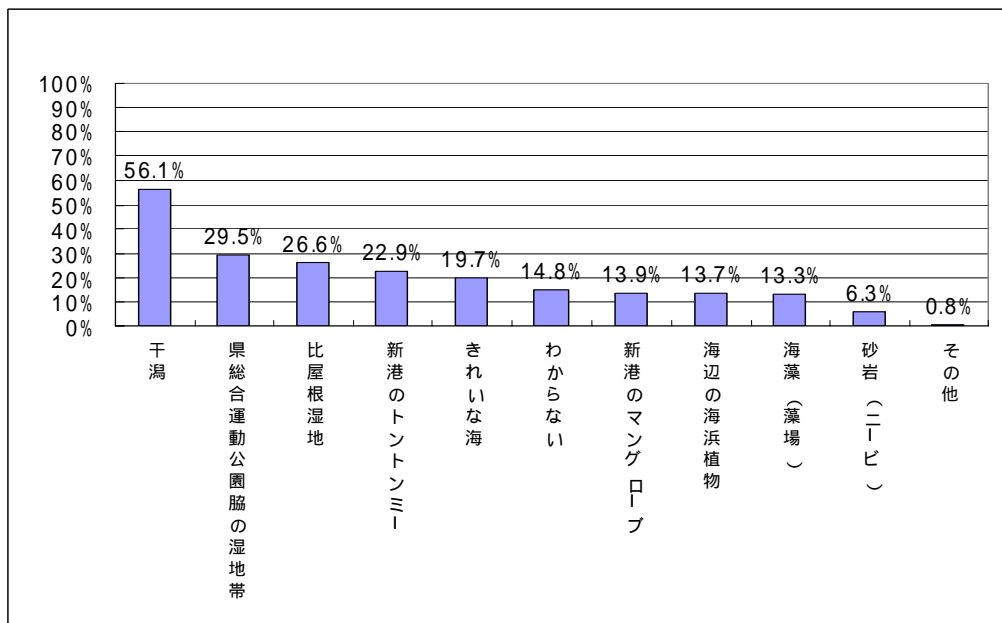
## 2. アンケート・ヒアリング調査結果の概要（意見の傾向）

### 2.1 住民アンケート調査結果の概要

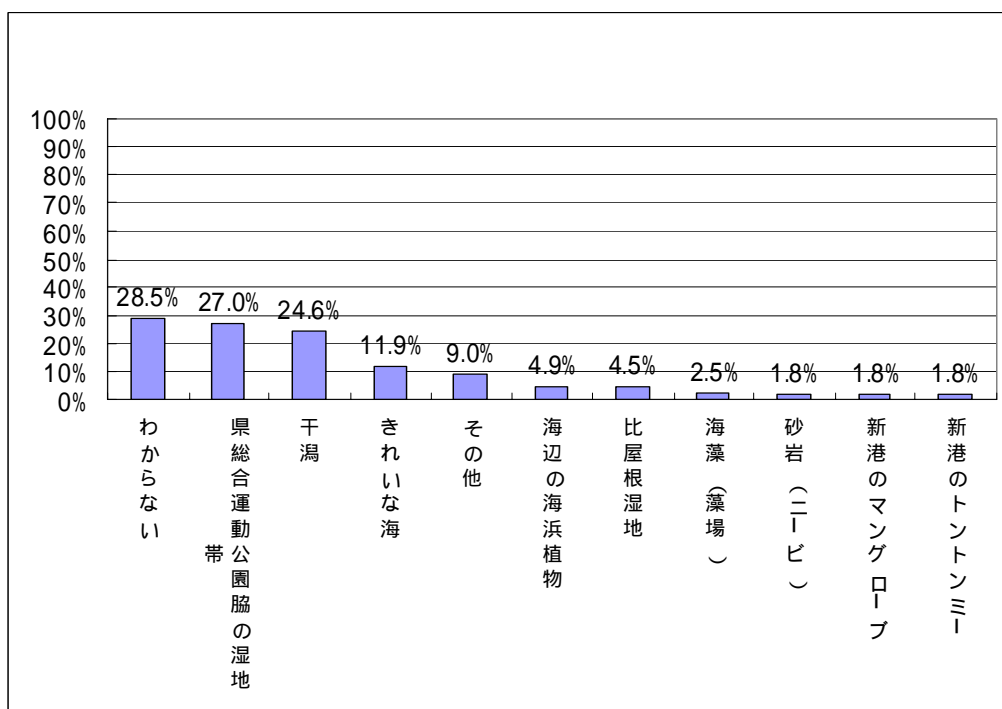
#### (1) 泡瀬地区の自然環境に対する意識

##### 泡瀬の自然環境に対する興味

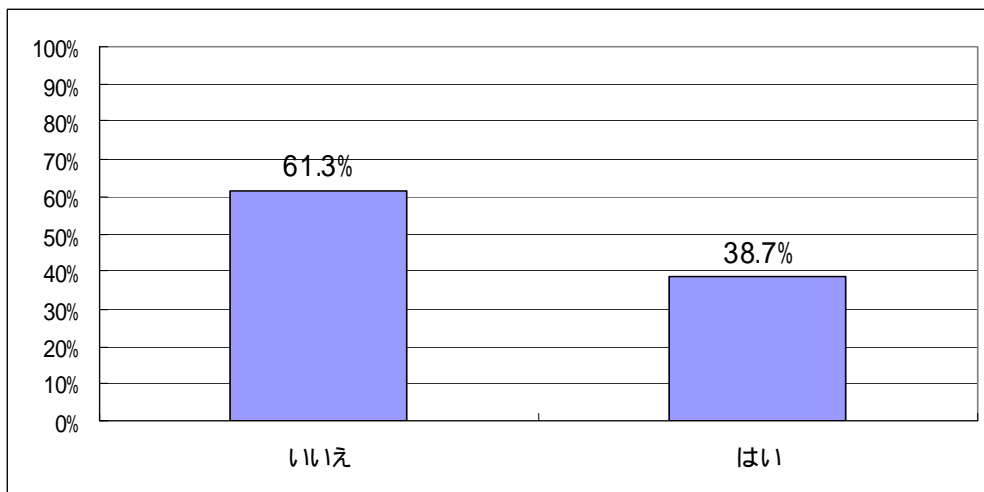
泡瀬地区における代表的な自然環境としては、「干潟」が最も多く、次いで「県総合運動公園脇の湿地帯」「比屋根湿地」となっている。



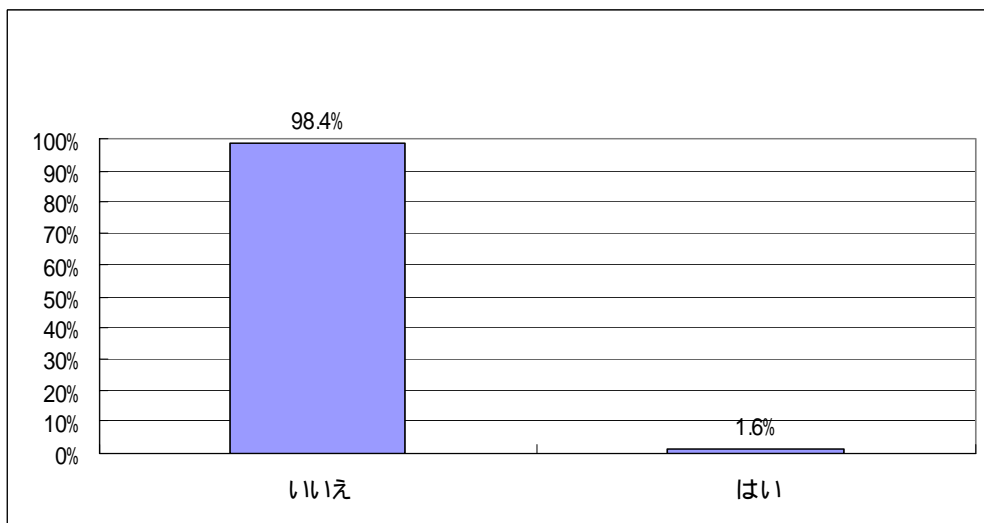
よく行くことのある泡瀬地区の自然環境は、「県総合運動公園脇の湿地帯」が最も多く、次いで、「干潟」「きれいな海」となっている。



泡瀬地区における自然環境を利用した環境学習が行われていることを知らない人は、全体の6割以上を占めている。



実際に、泡瀬地区の自然環境を利用した環境学習に参加したことのある人は非常に少なく、全体の1.6%である。



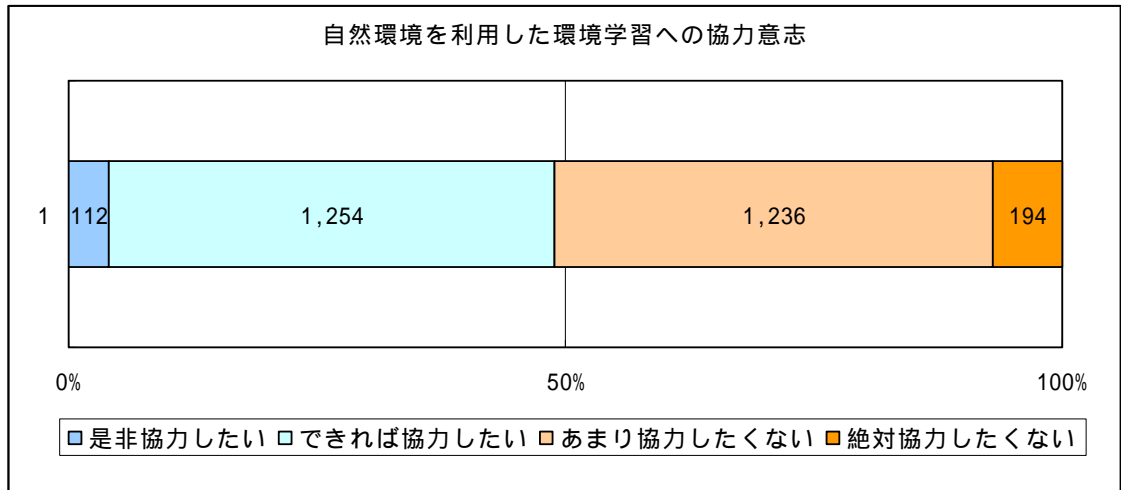




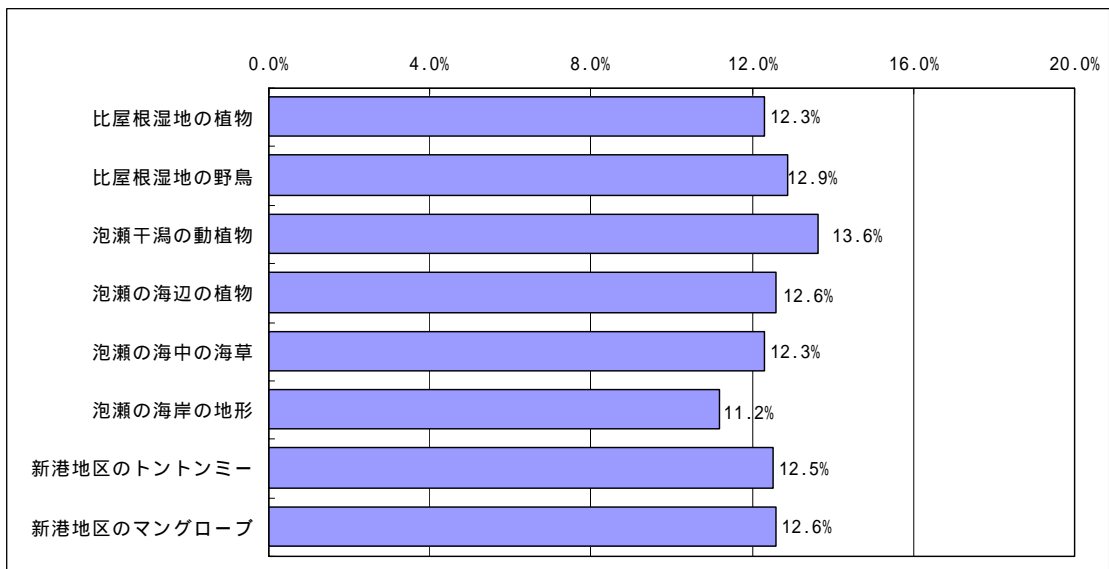


## 自然環境学習活動への協力

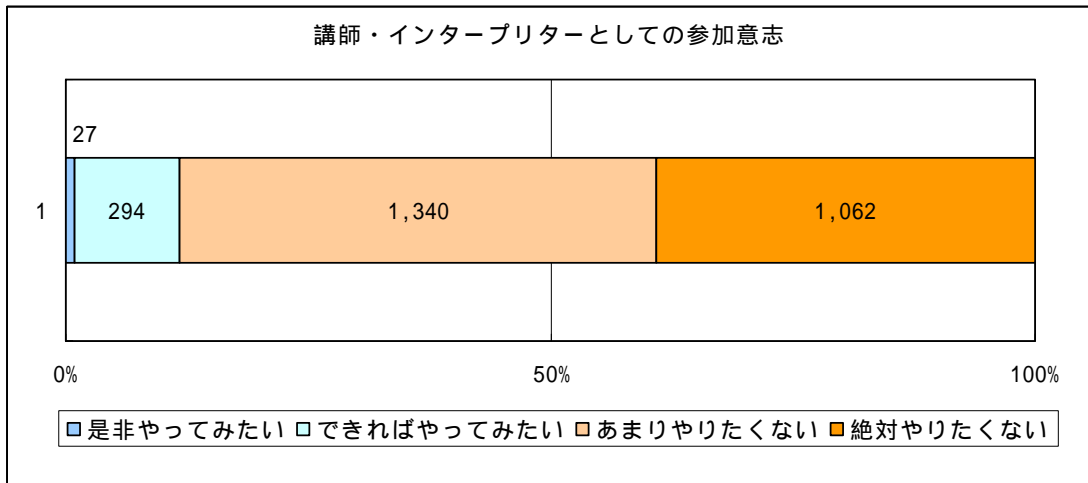
自然環境を題材とした環境学習へ協力したい人と、協力したくない人は、ほぼ同数である。



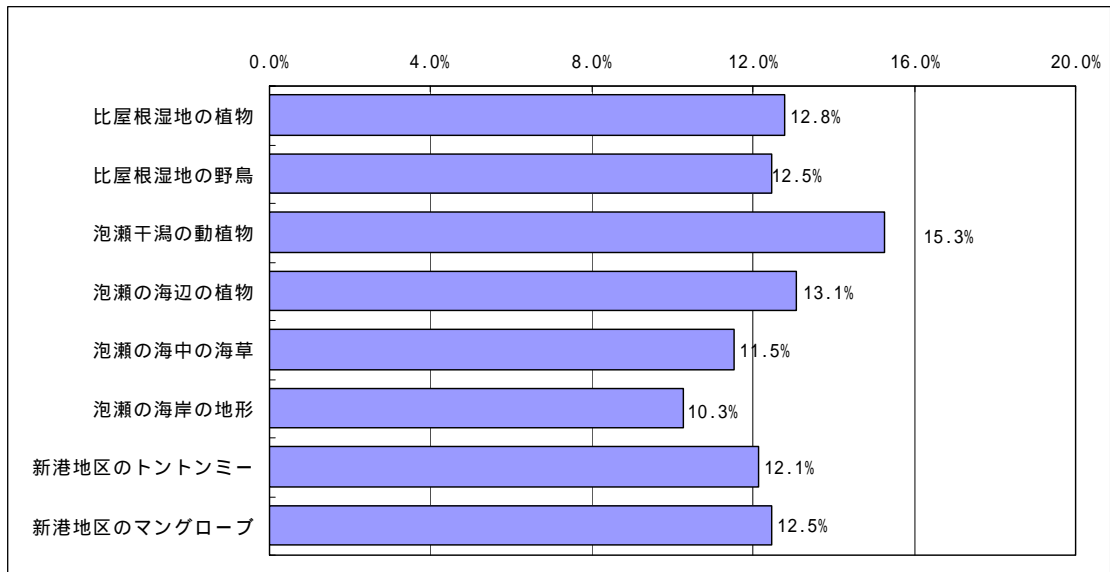
協力したい人(是非協力したい、できれば協力したい)を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬干潟の動植物」が最も多く、次いで「比屋根湿地の野鳥」となっている。



講師やインタープリターとして参加したいとする人は、全体の15%程度である。

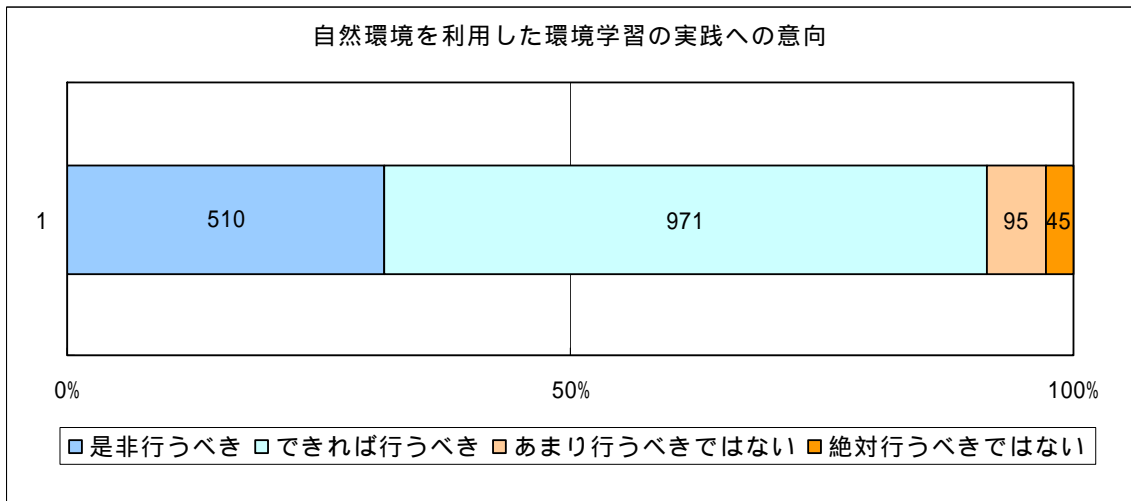


参加したいとする人（是非やってみよう、できればやってみよう）を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬干潟の動植物」が最も多く、次いで「泡瀬の海辺の植物」となっている。

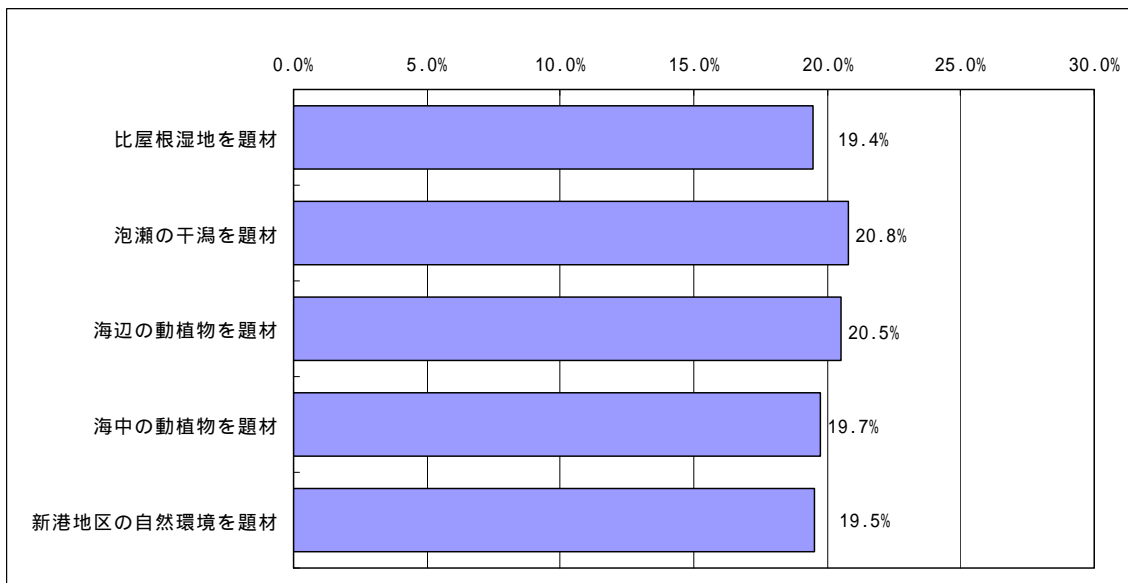


## 自然環境学習を行うべきかどうか

自然環境を利用した環境学習を行うべきとする人は、全体の9割近くに及んでいる。



行うべきとする人(是非行うべき、できれば行うべき)を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬の干潟を題材」が最も多く、次いで「海辺の動植物を題材」となっている。



## 総括

泡瀬で自然環境を題材とした環境学習が行われていることの認知度は低く、参加経験者も非常に少ない。

自然環境のうち「泡瀬干潟」「比屋根湿地」に対して、興味や意識が高い。

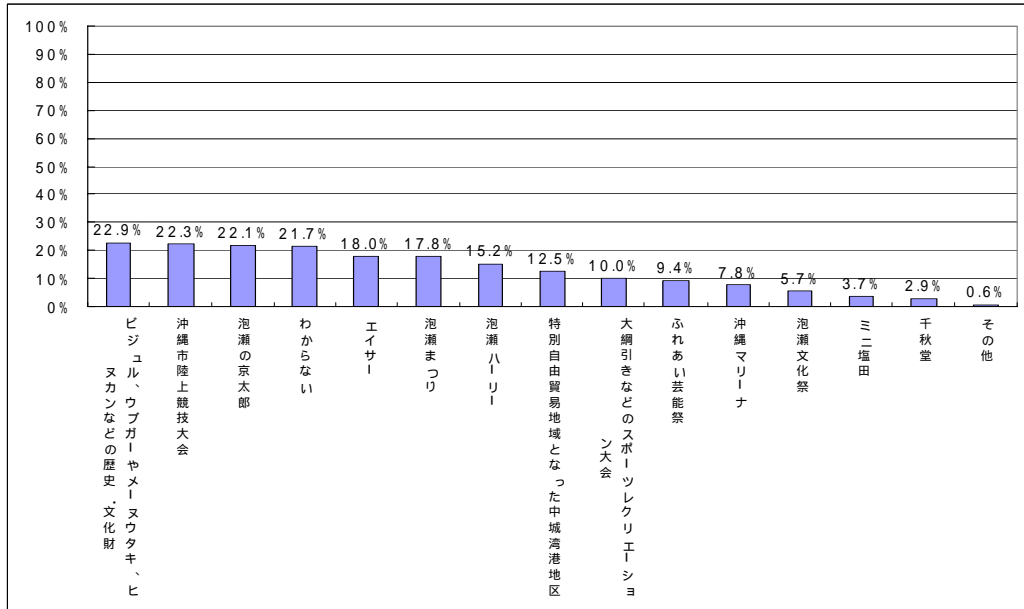
ほぼ半数の人が、参加意欲や協力意欲を持っている。

9割近くの人が、自然環境を利用した環境学習を行うべきと考えている。

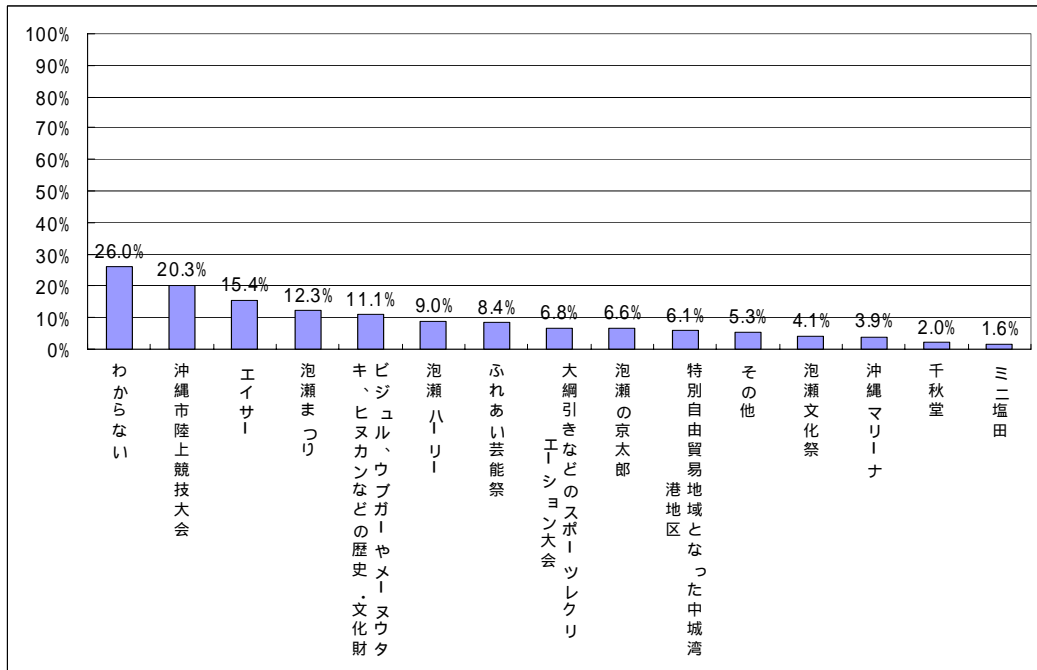
(2)泡瀬地区の社会環境に対する意識

泡瀬の社会環境に対する興味

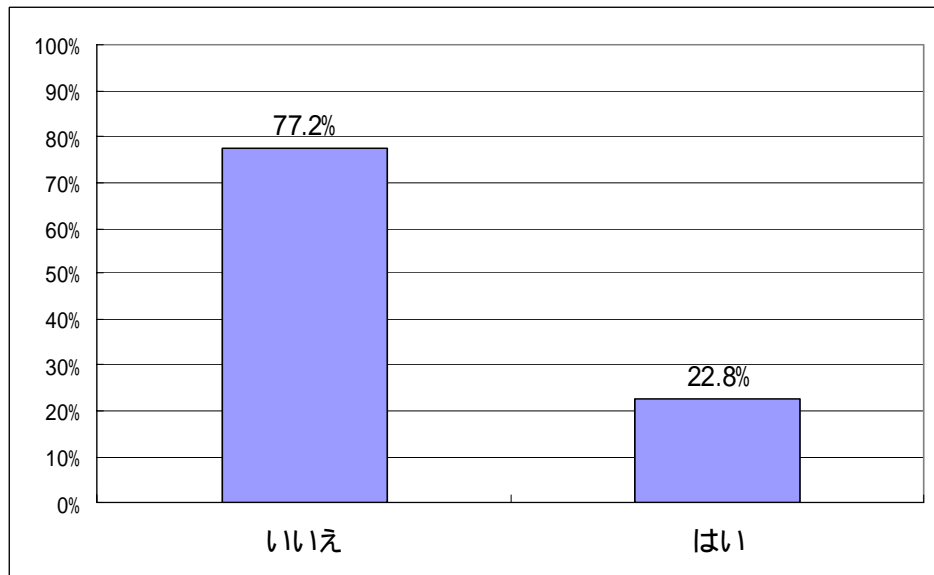
地域住民が泡瀬地区において代表的・特徴的と感じる社会環境は、「歴史・文化財」が最も多く、次いで「沖縄市陸上競技大会」「泡瀬の京太郎」となっている。



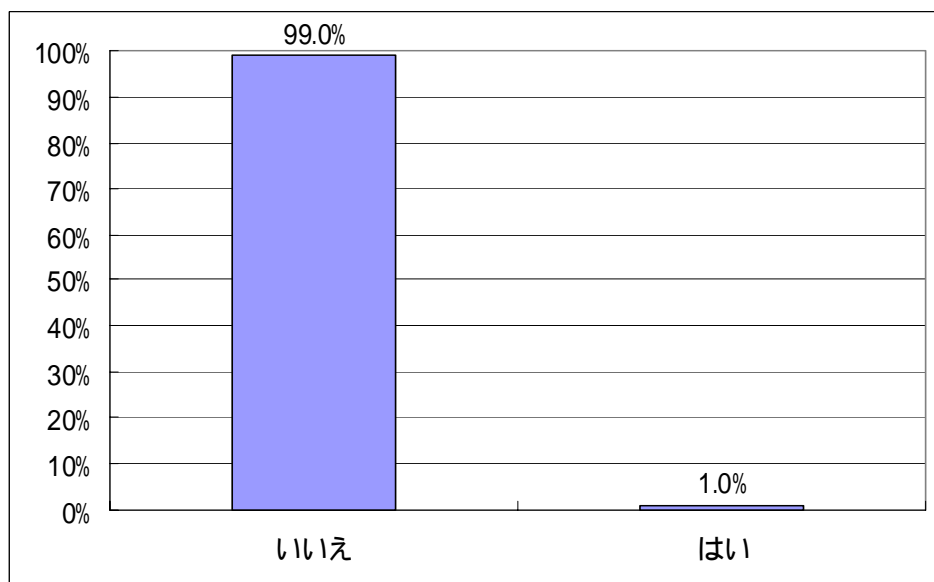
地域住民がよく参加したり見学する社会環境は、「沖縄市陸上競技大会」が最も多く、次いで「エイサー」「泡瀬まつり」となっている。



泡瀬地区における社会環境を利用した環境学習が行われていることを知らない人は、全体の8割弱を占めている。

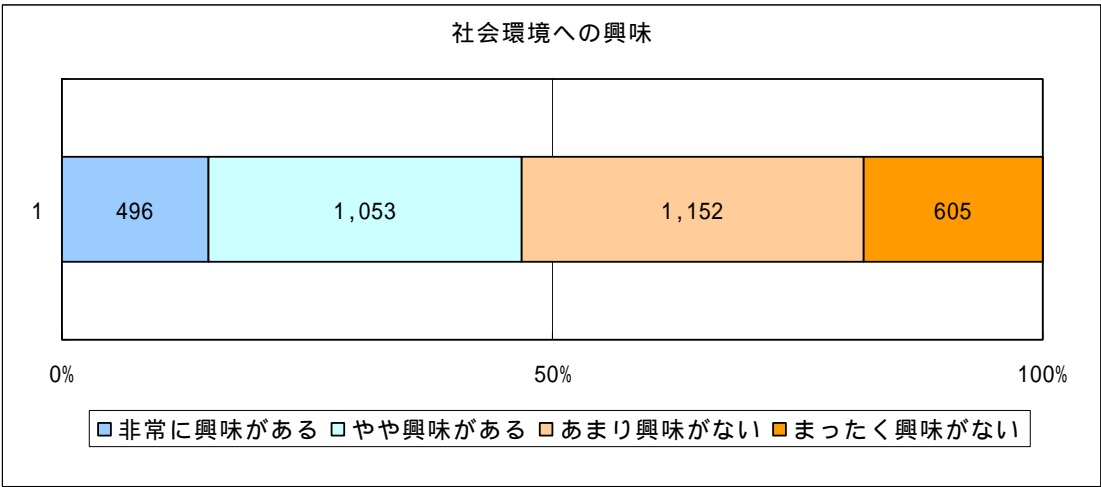


実際に、泡瀬地区の社会環境を利用した環境学習に参加したことがある人は非常に少なく、全体の1.0%である。

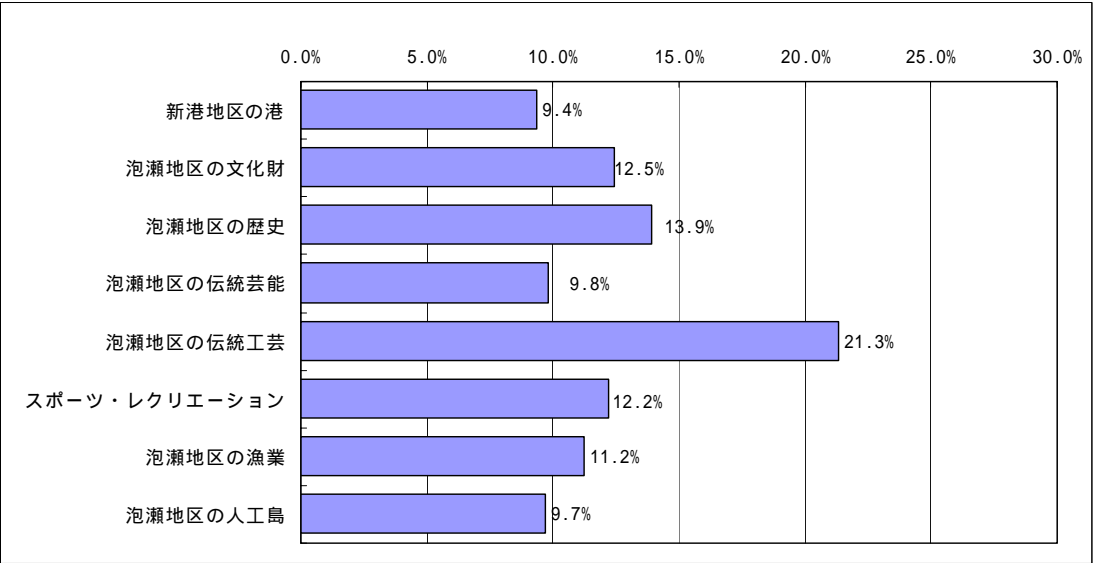


## 社会環境学習に対する興味

泡瀬地区における社会環境への興味では、興味がない人の方が若干多い。

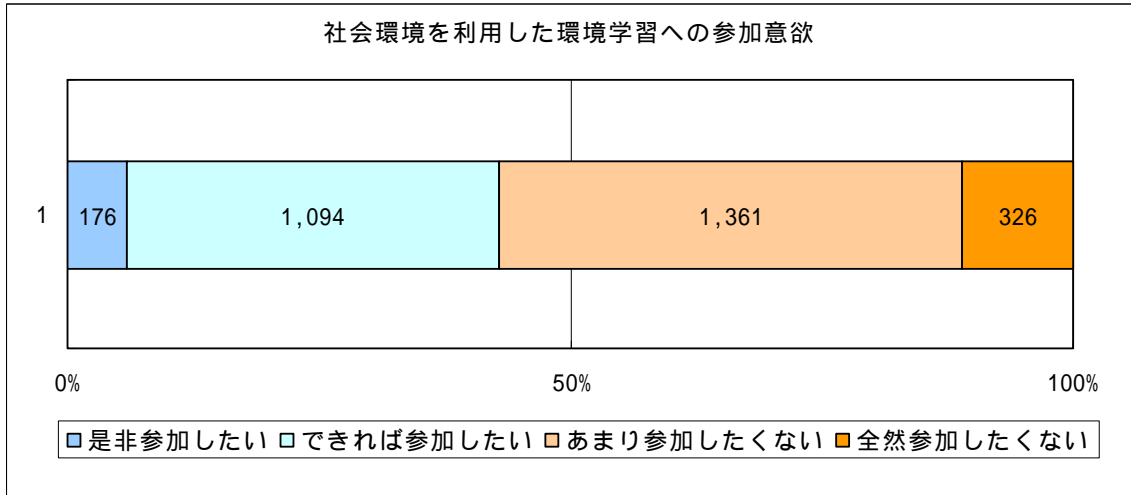


興味がある人（非常に興味がある、やや興味がある）を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬地区の伝統工芸」が最も多く、次いで「泡瀬地区の歴史」「泡瀬地区の文化財」となっている。

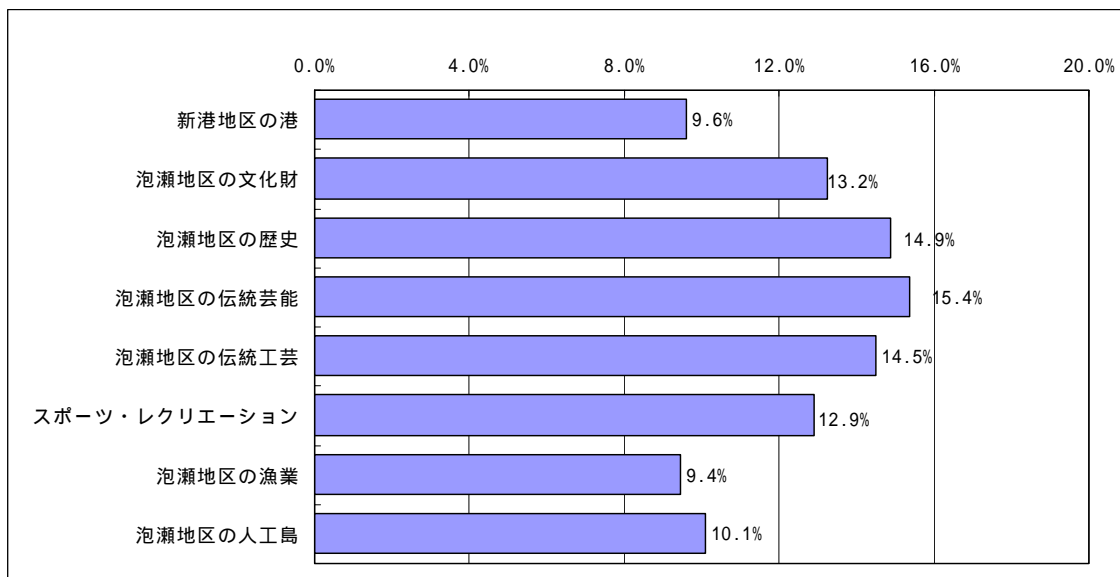


## 社会環境学習への参加意欲

泡瀬地区における社会環境を題材とした環境学習へ参加したいとする人は、参加したくない人に比べてやや少ない。



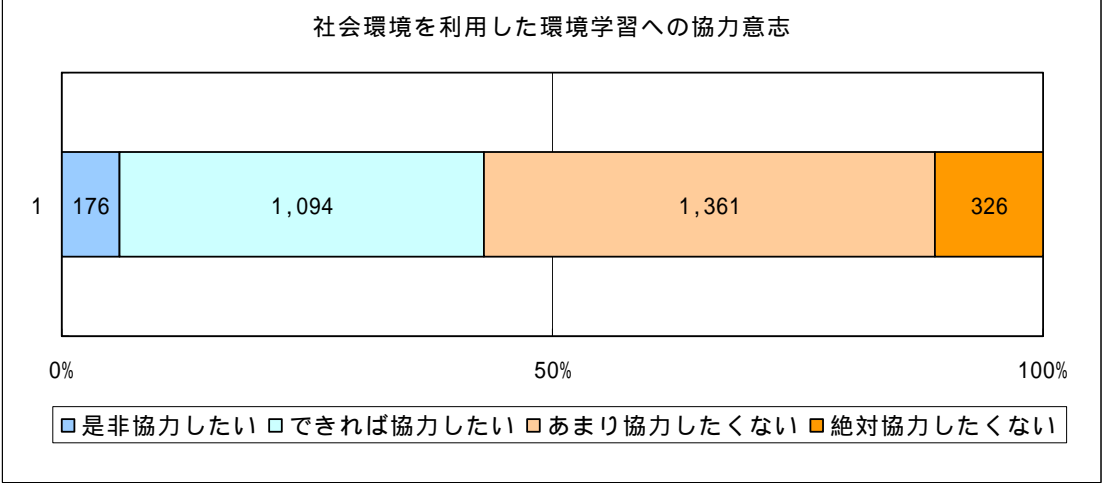
参加したい人（是非参加したい、できれば参加したい）を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬地区の伝統芸能」が最も多く、次いで「泡瀬地区の歴史」となっている。



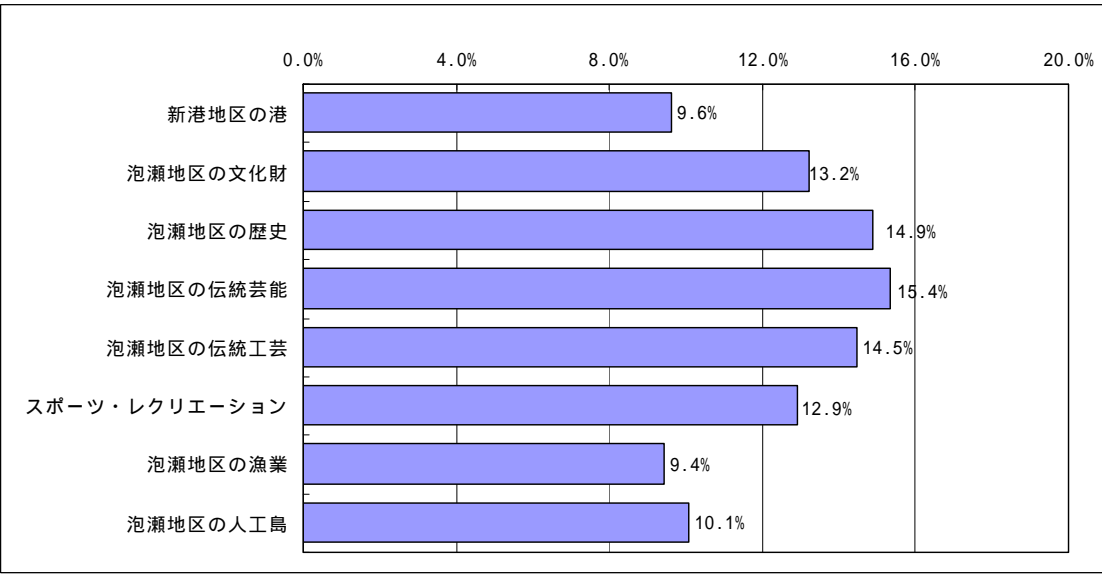


## 社会環境学習活動への協力

泡瀬地区における社会環境を題材とした環境学習へ協力したい人は、協力したくない人に比べてやや少ない。

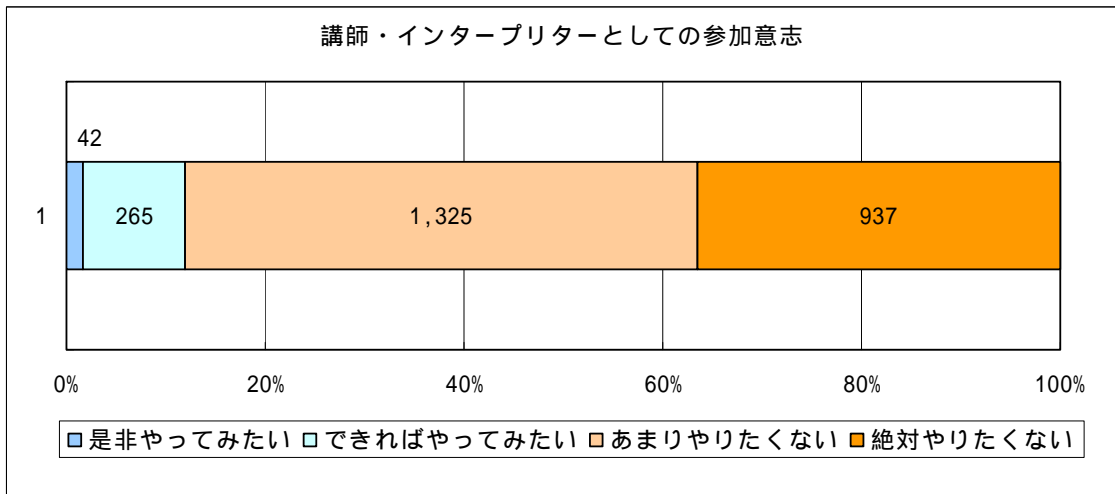


協力したい人(是非協力したい、できれば協力したい)を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬地区の伝統芸能」が最も多く、次いで「泡瀬地区の歴史」となっている。

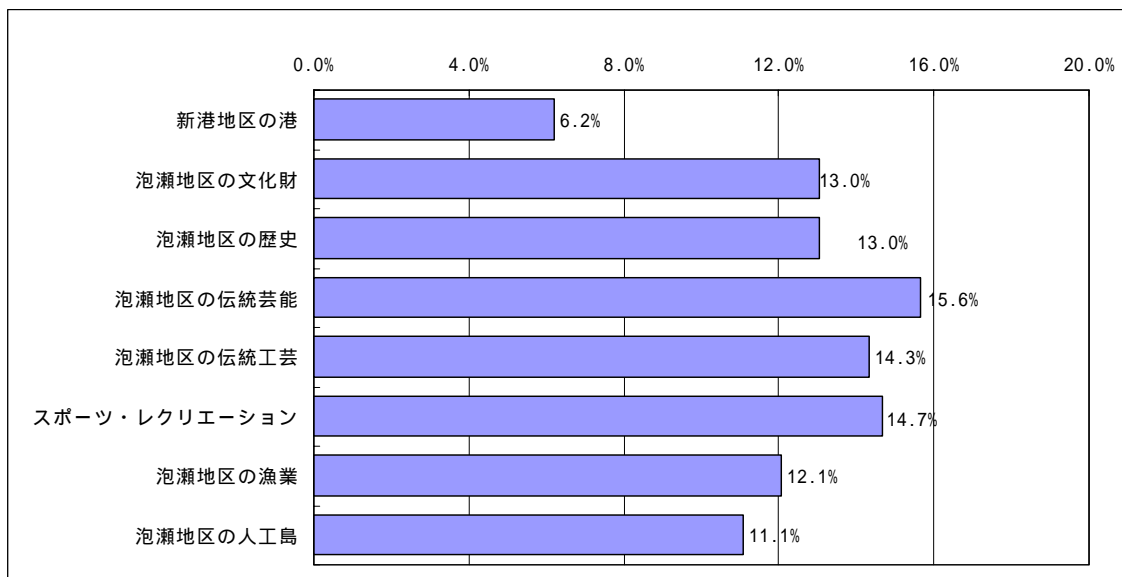


## 社会環境学習の講師としての参加意志

講師やインタープリターとして参加したいとする人は、全体の15%程度である。

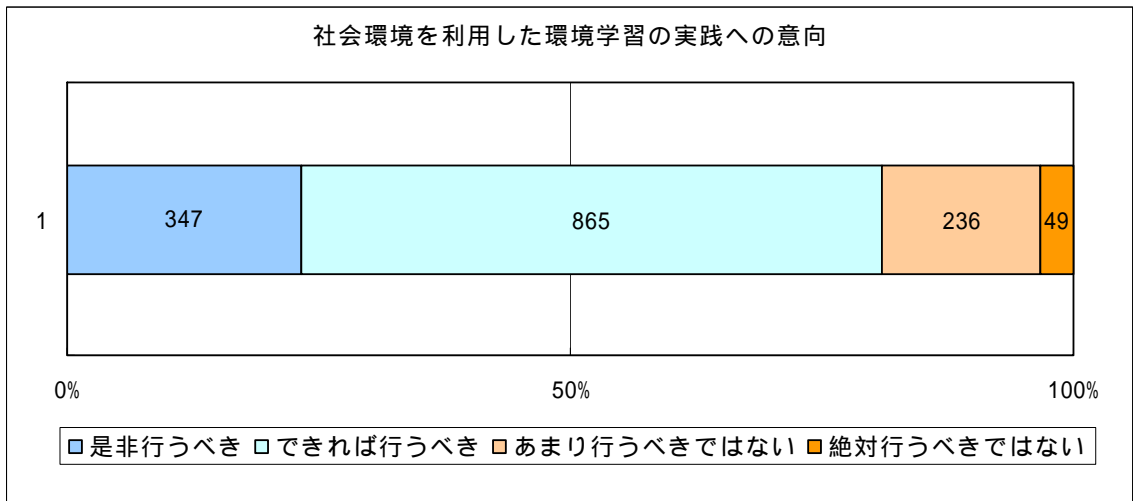


参加したいとする人（是非やってみよう、できればやってみよう）を対象に、その内訳を見ると、「泡瀬地区の伝統芸能」が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」となっている。

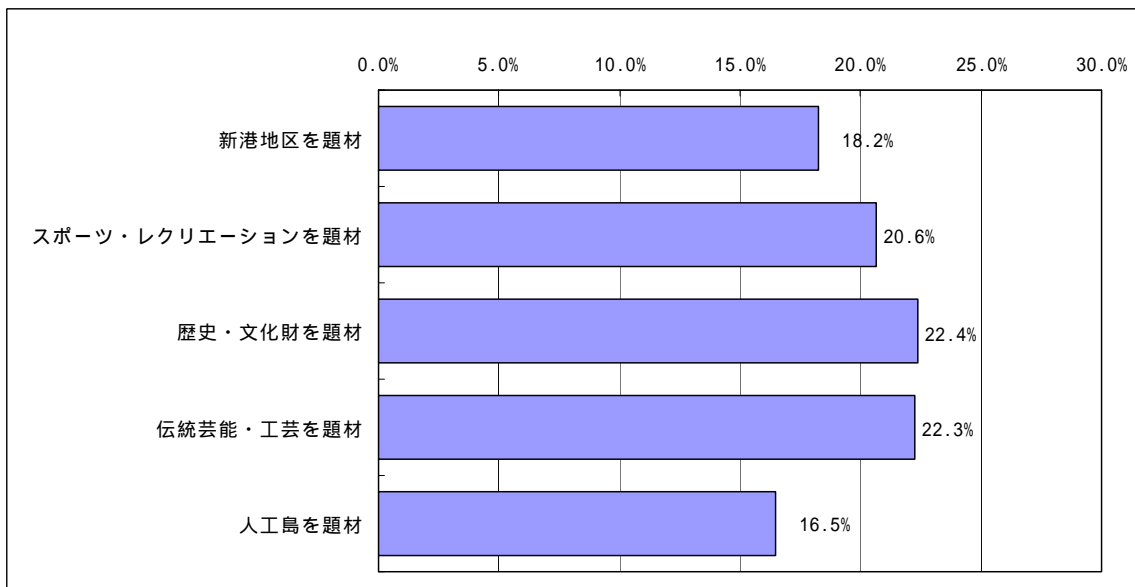


## 社会環境学習を行うべきかどうか

社会環境を利用した環境学習を行うべきとする人は、全体の8割近くを占める。



行うべきとする人(是非行うべき、できれば行うべき)を対象に、その内訳を見ると、「歴史・文化財を題材」が最も多く、次いで「伝統芸能・工芸を題材」となっている。



## 総括

泡瀬で社会環境を題材とした環境学習が行われていることの認知度は低く、参加経験者も非常に少ない。

社会環境のうち「泡瀬地区の伝統芸能」「泡瀬地区の伝統工芸」「泡瀬地区の歴史」に対して、興味や意識が高い。

約4割の人が、参加意欲や協力意欲を持っている。

講師としての参加では、約15%の人が意欲を持っている。

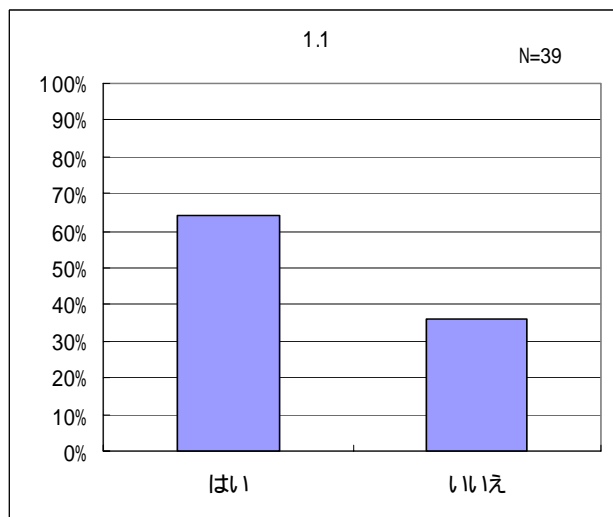
8割近くの人が、社会環境を利用した環境学習を行うべきと考えている。

2.2 小・中学校、高校、養護学校アンケート調査結果の概要

(1)自然環境学習活動

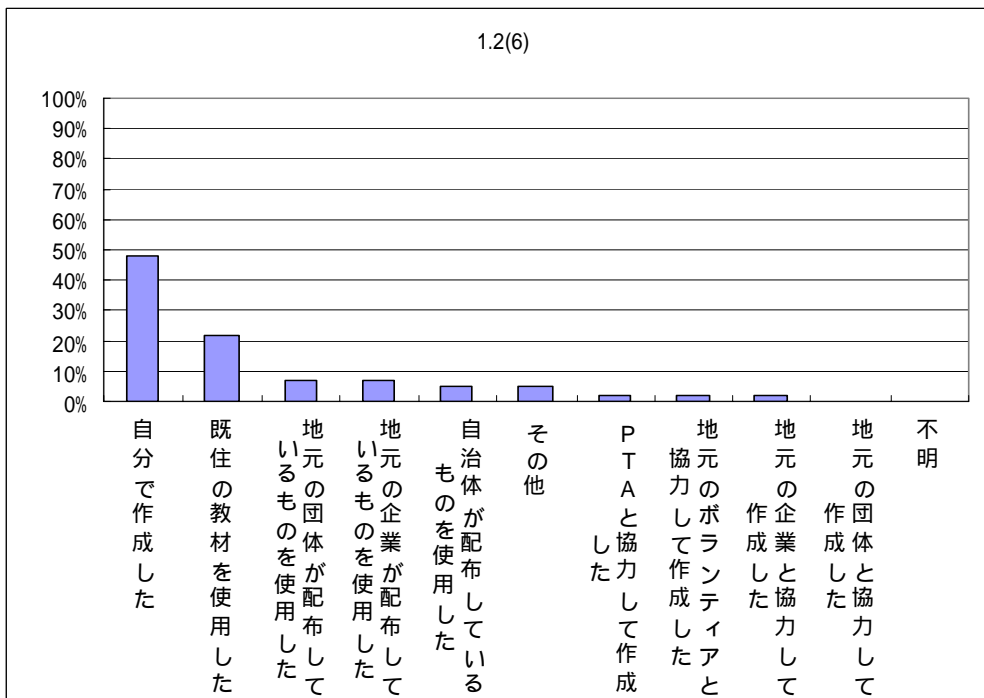
自然環境学習の実施

自然を対象とした環境学習を実施した学校は、約 2/3 であり、その題材（テーマ）は、「ゴミ」「沖縄市の動植物」「水質」「河川」「大気」「干潟・海」である。



分類	内容	分類	内容
ゴミ	ゴミ問題	水質・河川	水はどこから
	ゴミの分別		水質調査
	資源ゴミ		比謝川の水質調査
	ゴミの行方		比謝川について
	ゴミのもたらす自然破壊		比謝川の生き物とゴミ
	ゴミ減量作戦		地層・地質
	ゴミ拾いボランティア	地域の大地ができた働き	
	ゴミはどこへ	干潟・海	干潟の小さな生き物
動植物	沖縄市の自然環境		泡瀬干潟の観察
	沖縄市の動植物		ふくさとの海を守る
	沖縄市の天然記念物	その他	黒糖づくり
	カイコを育てる		野外実習
	生き物のくらしと環境		サイエンスパートナープログラム
家庭の中から環境を考える	学校周辺の騒音		
自然環境	身近な自然を知る	大気調査	
	地域の環境		

教材の形態は様々であるが、これら教材を「自分で作成」している事例が最も多い。



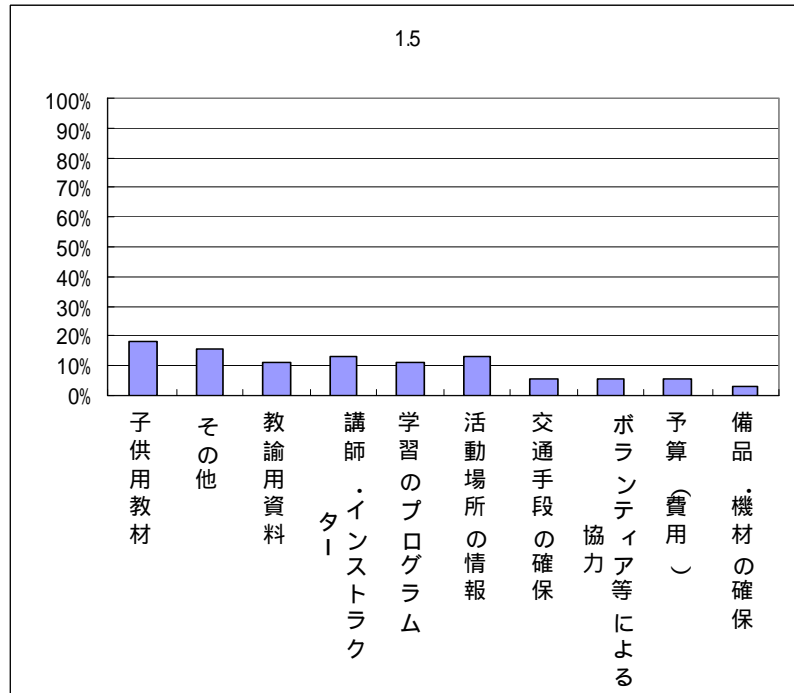
教材一覧	
市環境課よりのパワーポイント教材	パソコン
実際のプラスチックのチップやガラスのカレット	パンフレット
ペットボトル・ビン・カン・段ボール	ビデオ
市販のゴミ袋と校内のゴミコンポート	図鑑などの本
実際にゴミを分別させてみる	校内地図
教科書	比謝川を蘇生させる会の資料
インターネット	沖縄市立郷土博物館
図書	自作プリント
さとうきび	ビデオ教材
家カイコ	校庭の昆虫や植物
資料集・私たちの沖縄市	沖縄の理科資料集
環境省等のパンフレット	学校内外に捨てられている色々なゴミ
ミナミコメツキガニや干潟の小動物	泡瀬海岸
テープレコーダ	地層
インタビューカード	県総合運動公園
ワークシート	パワーポイント
地域の人材（講演）	直接体験
現地での調査	バックテスト
写真（デジカメ）	自主制作実習ノート

問題点・課題は多岐にわたるが、「協力・連携」「プログラム」に関する問題点・課題が比較的多い。

分類	問題点・課題
プログラム	大きく問題を掲示してもよく理解できないので、身近な視点から捉える手法をもっと工夫して授業を行わなければならない
	ただ問題点を並べるだけでなく、そこから学び、これからどうすることが大切かと導くこと
	調べ学習で終わるのでは内容が浅く、面白くない
	情報があまりないことと教材研究する時間がないこと。教科ではあまり地域を扱う授業時数が取られていないこと
協力・連携	専門的知識を持った方を、ボランティア講師としてしたい招へいが、なかなか見当たらない
	総合学習でいくつかのテーマに分かれてグループで調べ学習をするとき、担任一人での対応がきびしい
	遠くへ行く場合の交通手段確保とその場合の安全面
	校外活動の際の引率の問題
	生徒や保護者で現場にいける体制ができてない
	地域と養護学校が連携をとってネットづくりをする必要がある
教材	教師の知識、連携と行動力
	どの施設を利用したらいいかわからない
フィールド	子ども用教材が少ない(特に優しい言葉で表現された資料)
	昆虫等が観察できる場所がない
子供の問題	体験的な学習の場が少ない
	生徒自身が将来において考えなければならない問題である事を意識していない。今がよければよいと思っており自分たちで守り育てるものである事を意識していない
教諭の問題	自然は破壊するのはたやすいが、作り出すのは努力と時間が必要となる。現代の子供たちは忍耐力や根気強さに乏しいため創り続けることへ深い興味を示さない。
	自然環境に関する教育の知的部分の研修がまず必要。科学的認識から理系文系出身では差がある。
その他	ただ単に、埋め立てをする、環境破壊という考え方ではなく、多面的に見ていく必要があると思ひ、かなりの予備知識が求められると考える。資料や勉強する時間が必要。
	自然を対象に学習するので、なかなか計画通りに進みにくい
	実施日が雨天だと観察することが不可能になる
	授業時間に制限があるため、現場の検証に時間があまりさけない 都市部の露頭が整備されること(表面がセメント等で覆われるなど) 安全対策など

## 自然環境学習への支援

自然を対象とした環境学習において、最も必要となる支援は、「子供用教材」が最も多く、その他では「教諭用教材」「講師・インストラクター」「活動場所の情報」「学習プログラム」が上位に位置している。

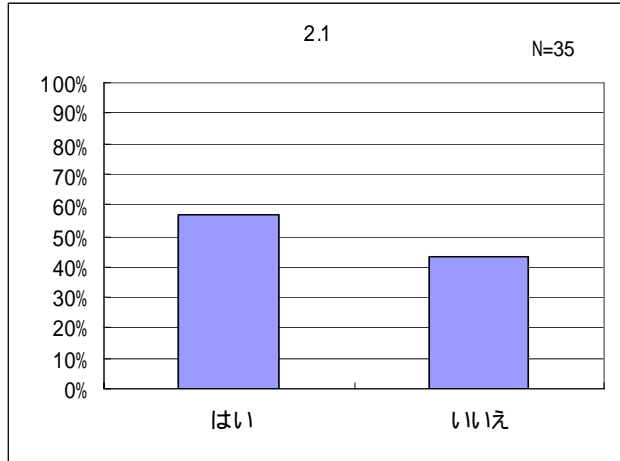




(2)社会環境学習活動

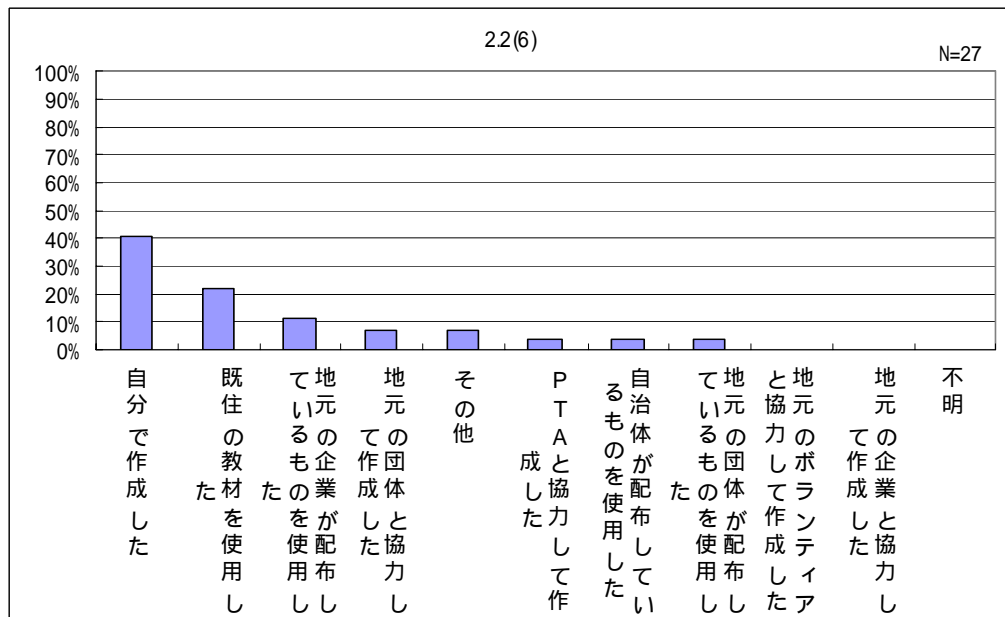
社会環境学習の実施

泡瀬地区における社会環境を対象とした環境学習を実施した学校は60%弱であり、自然環境学習に比べてやや少ない。また、その題材(テーマ)は、多岐にわたっている。



題材(テーマ)
歴史・文化
沖縄市の産業
職場
赤ちゃん抱っこ体験学習
地方自治
労働
社会資本
校区内見学
公共施設を利用しよう(市立図書館、県総合運動公園)
安全マップ作り
地域のむかし
見直そうわたしたちの暮らし
牛乳工場ではたらく人たち
ゴミ問題(リサイクル)
沖縄の伝統工芸
環境の汚染と保全
し尿・生活排水の処理
身近な地域の調査
新札について
環境と開発(泡瀬)
基地の雑音
運動会で地域の伝統芸能「泡瀬チヨンダラー」を踊ろう
町探検
ダム、浄化場、汚水見学

教材の形態は様々であるが、これら教材を「自分で作成」している事例が最も多い。



教材一覧
教科書
副教材（資料集）
校区周辺（道路、店、公園、住宅他）
沖縄市立図書館
沖縄県総合運動公園
点検カード(地図)
前年度の作品
学習プリント
私たちの沖縄市（準教科書）
インターネットホームページ
図書資料
家庭の実態調査
紅型
粘土
協力して頂いた工場からの配布資料
泡瀬チヨンダラーの歴史資料
踊り方の解説

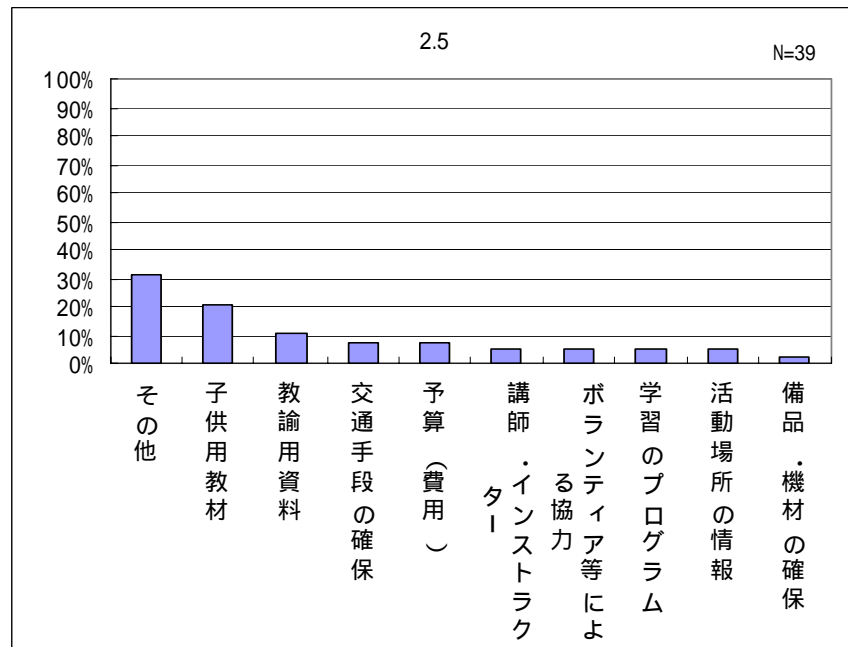
## 社会環境学習の問題点・課題

問題点・課題は多岐にわたるが、「プログラム」「協力・連携」に関する問題点・課題が比較的多い。

分類	問題点・課題
プログラム	身近な問題としてとらえさせること
	社会環境を整えながら自然を維持する為の取組みを紹介し理解してもらい、社会環境を整え産業を発展させることも良いが、それが自然破壊につながらないか考える力を持たせたい
	どのような事をどのような観点で学習を進めたらよいかかわからない
	設備、研究方法、指導方法
協力・連携	学習場の協力
	校外での活動が多くなるため、安全面での注意や支援者の協力が必要
	協力して頂く企業や団体等との学習プログラム内容の検討会や打ち合わせ時間の確保
教材	地域に密着した資料、しかも平易な文で表現されたものが少ない
教諭の問題	教師の知識と連帯と行動力
子供の問題	ただ見学するだけではなく学習の意識を持たせること。私語が多く説明を聞かない、説明してもメモの取り方がわからず書かない生徒が多い。思考発展がない
時間の問題	授業時数の確保
	社会環境の学習計画を立てて実施する時間がない
その他	学習環境の開発

## 社会環境学習への支援

社会環境を対象とした環境学習において、最も必要となる支援は、「子供用教材」が最も多く、次いで「教師用教材」となっている。



## 総括

教材は、自然環境学習、社会環境学習ともに、教諭自身が作成している事例が最も多い。

実施上の問題点・課題としては、自然環境学習、社会環境学習ともに、「プログラム」及び「協力・連携」に関する問題点・課題が比較的多い。

最も必要な支援としては、自然環境学習、社会環境学習ともに、「子供用教材」が最も多く、その他では「教諭用資料」等が上位に位置している。

2.3 NPO 等緒団体ヒアリング調査結果の概要

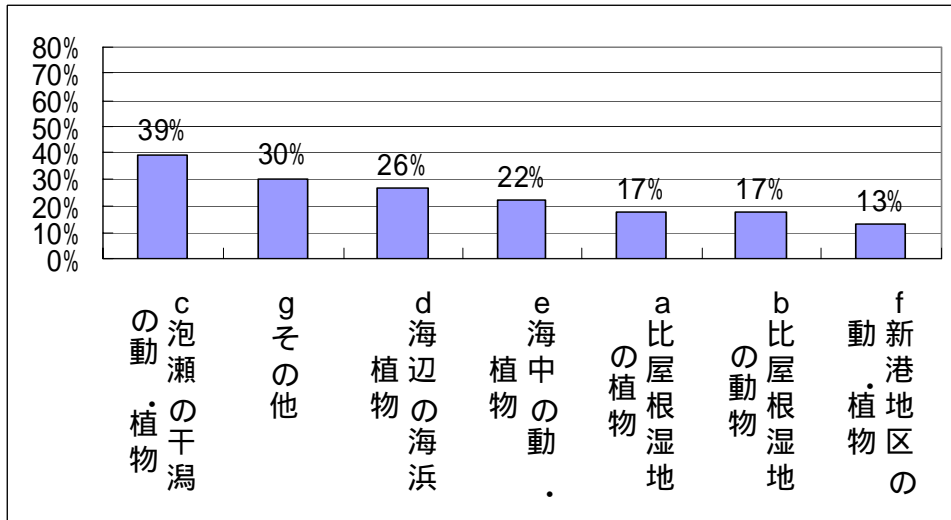
今までの苦労話、問題点・課題

問題点・課題及び苦労話は多岐に及んでおり、「費用」「リーダーやインタープリター育成」などがあげられている。

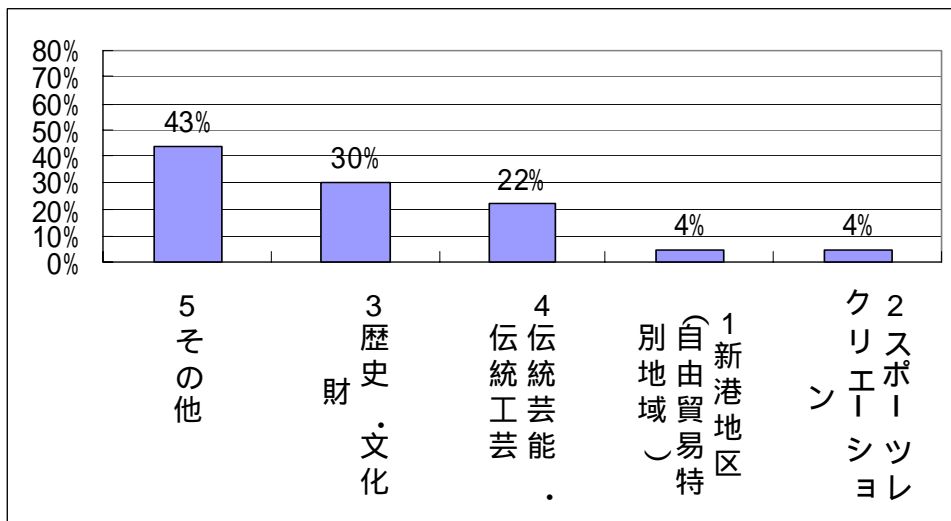
主要な問題点・課題、苦労話
今後は、活動を続けていくとともに、会のリーダー的な役割を担う後継者の育成に力を入れたい。また、周辺住民への参加呼びかけを積極的に行いながら、子供達の環境学習の場としても活用してもらえよう取り組んでいきたい。
地域住民の参加
情報ネットワークをうまく利用する
他団体のスケジュールを把握し、他の行事と活動をかぶらせないようにする
行政との問題（行政の対応）
環境保全、無農薬に関する意識がまだまだ低く今後も啓蒙が必要。5年前は講習会を開催していたが今は検査や認定が主である。
県内各地にボランティアが必要
自然環境について、継続して学習してもらうには、どのようにしたら良いのか。
環境保全、無農薬に関する意識がまだまだ低く今後も啓蒙が必要である。
5年前は講習会を開催していたが今は検査や認定が主である。
県内各地にボランティアが必要であり、またリーダーを育成することも必要である。
ボランティアで参加されている方々の、会員への対応
教材、リーダー育成、インタープリター育成
英語の出版物や海外での活動が多いので、県内でその存在が知られていないことが一番大きな問題である。そのことから派生して、お金も収集できず、英語を多少話することができるボランティアが来ない。
現在ホームページを通じ全国的に支援を頂いている。（公的なものはない）また、費用の支援があれば助かる
一般市民が自由に使用できる県の機材がない。
夜間照明が多くなり天体観測、観察が困難である。
会員からの会費で賄われているため、継続して会員になってもらわないと費用の面で厳しくなる。

## 泡瀬地区の環境への興味

興味をひかれる泡瀬地区における自然環境では、「泡瀬の干潟の動植物」が最も多く、次いで「海辺の海浜植物」となっている。

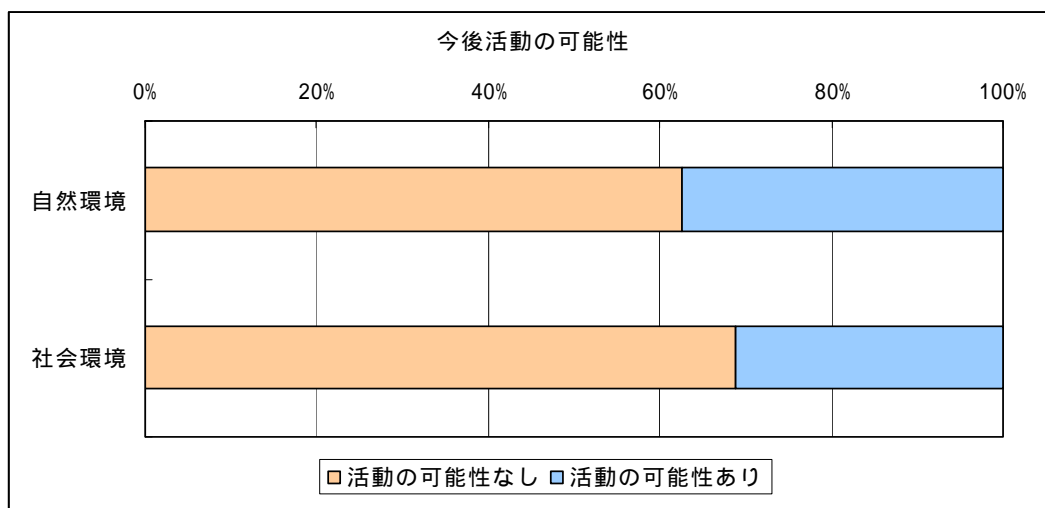


興味を引かれる泡瀬地区における社会環境では、「歴史・文化財」が最も多く、次いで「伝統芸能・伝統工芸」となっている。



## 泡瀬地区における今後活動の可能性

自然環境を題材とした活動、社会環境を題材とした活動とも、「今後活動の可能性なし」の占める割合が高い。また、自然環境を題材とした活動の方が、「今後活動の可能性あり」の割合が高い。



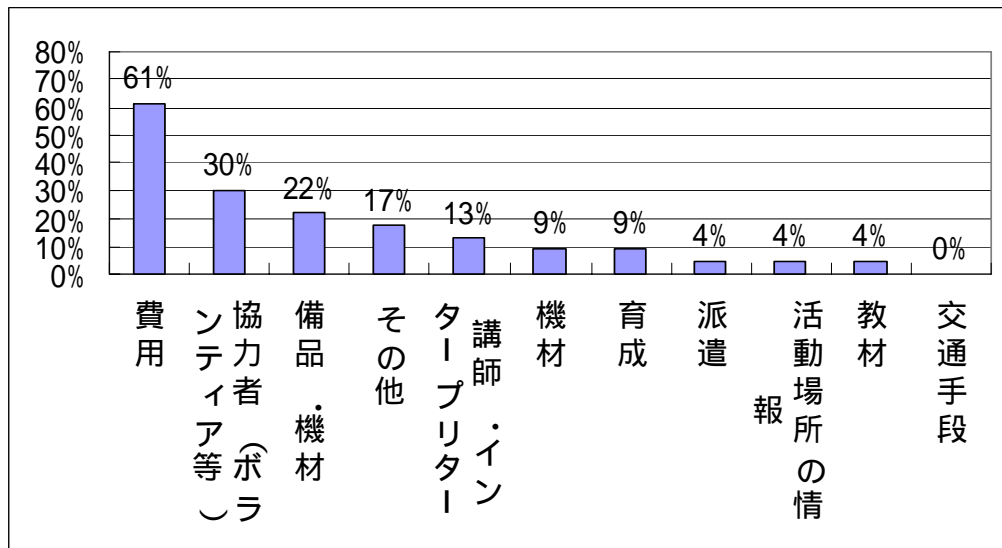
可能性なしと答えた団体等を対象に、その理由を聞いたところ、費用の面、交通手段面、時間面等があげられている。

### <活動の可能性なしの理由>

- ・ 資金的に泡瀬まで行くのが難しい。
- ・ 活動場所から泡瀬まで距離があり、交通の面で不便である。
- ・ 決められた活動場所でのみの活動である。
- ・ 交通費がかかるため、メンバー全員を泡瀬まで連れて行くことが困難である。
- ・ 時間にゆとりがある場合は泡瀬に関われるが、現時点では時間にゆとりがないため関わるができない。
- ・ サポートする可能性はあるが、まずは地元の人たちが積極的に活動すべきである。
- ・ 広域なため自主開催は難しい。
- ・ 今のところは積極的に泡瀬地区で活動する予定はないが、昔、一部にマングローブを植えた。
- ・ 自分たちの活動で精一杯である。

## 最も必要となる支援

「費用」が最も多く約6割を占めており、次いで「協力者（ボランティア）」「備品・機材」となっている。



## 総括

泡瀬の干潟・海浜植物に対する興味、泡瀬の歴史・文化財に対する興味が比較的高い。

泡瀬の自然環境を題材とした環境学習活動実施の可能性のあるNPO等諸団体は、全体の約4割弱である。

泡瀬における活動の可能性なしの理由は、費用面、時間面等である。

必要とされている支援は「費用」「協力者」「備品・機材」である。